

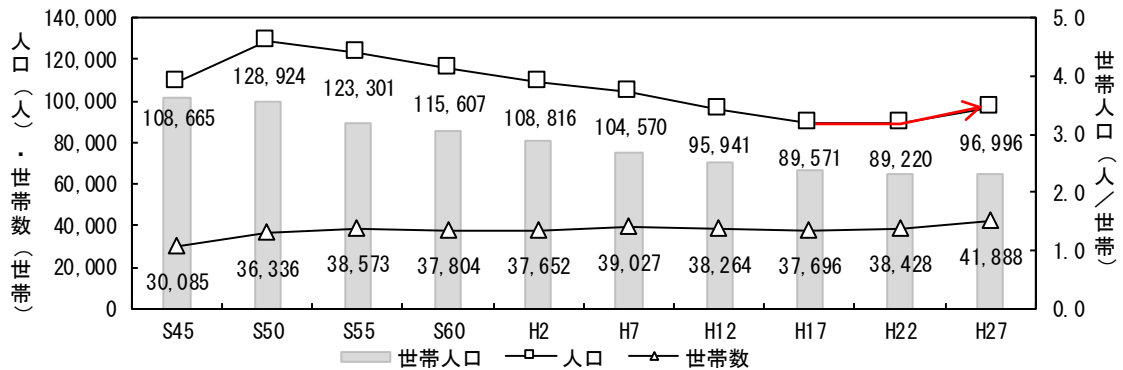
千里ニュータウンの現状について 【第2回意見聴取会議追加分】

1. 人口・コミュニティ

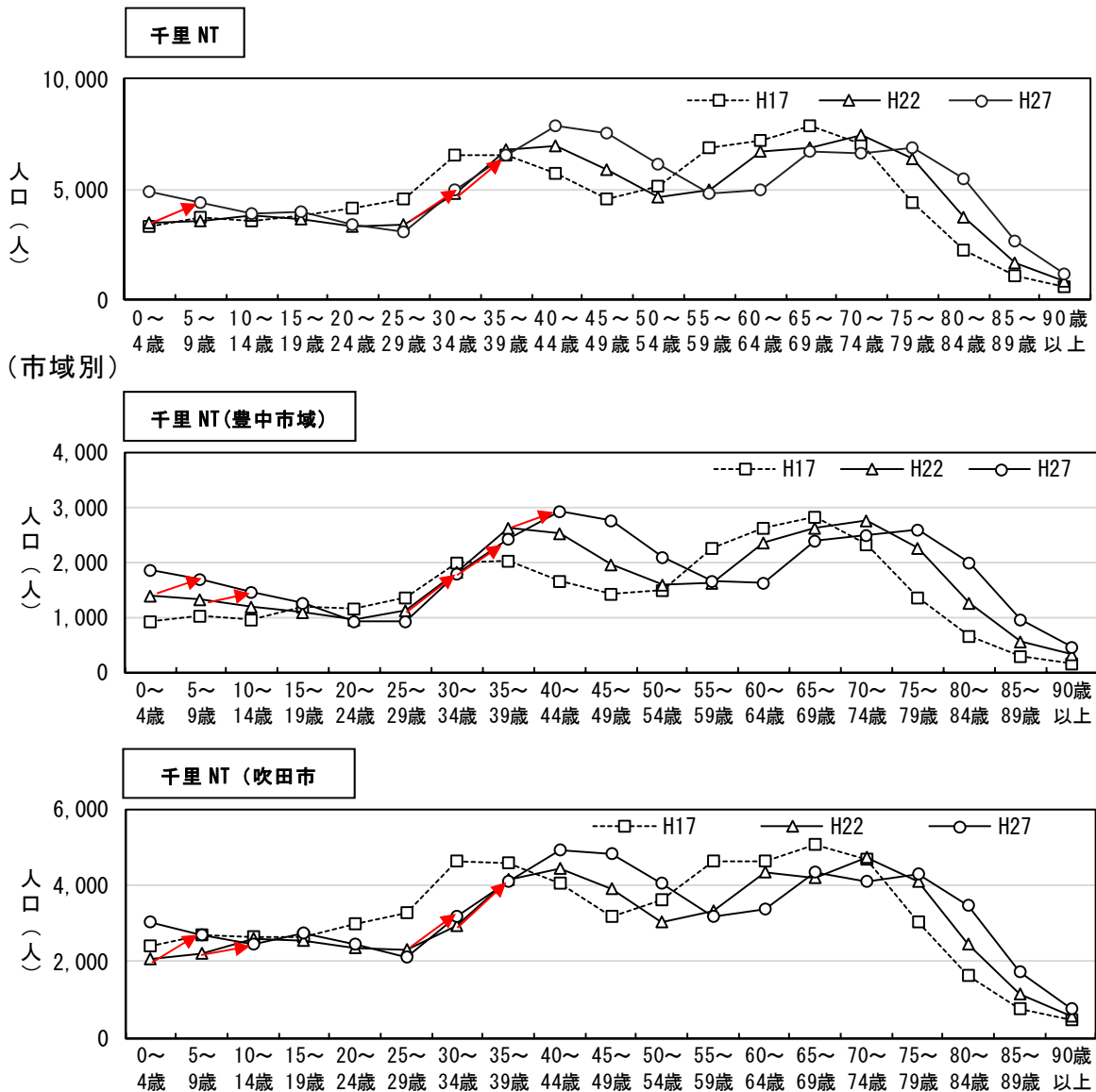
○若年世代が流入し、人口・世帯数は増加

- ・人口は、平成17年まで減少していたが、この10年間で増加(7,425人)。
- ・15歳未満人口及び、30歳代～40歳代前半の世代(平成27年時点の年齢)の増加が顕著。

■千里NTの人口・世帯数推移(出典：国勢調査)



■5歳年齢階級別人口の推移(出典：国勢調査)



○高齢化率は上昇を抑制しているが、高齢者数・高齢者のみの世帯は増加

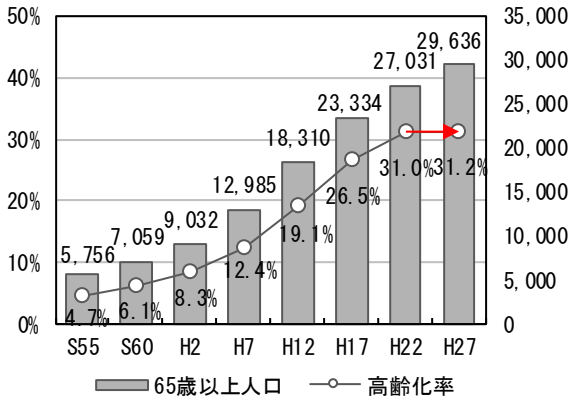
- ・ 高齢者数は増えているが、高齢化率はこの5年間31%程度で、上昇が抑制。

(両市全体では高齢化率は上昇し続けており、豊中市で25.3%、吹田市で22.5%)

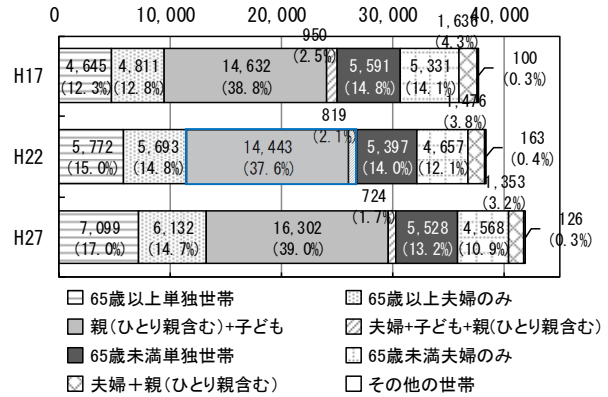
- ・ 世帯構成をみると、高齢者のみの世帯 (65歳以上単独世帯、65歳以上夫婦のみ)、子育て世帯 (親+子ども、夫婦+子ども+親) は増加し、世帯構成に占める割合も増加傾向である。

■高齢者数・高齢化率の推移

(出典：国勢調査)

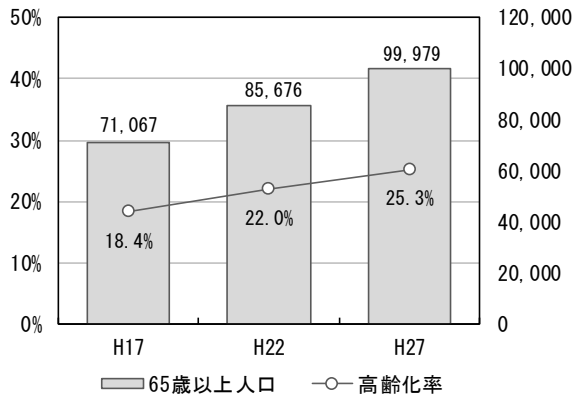


■世帯構成 (出典：国勢調査)

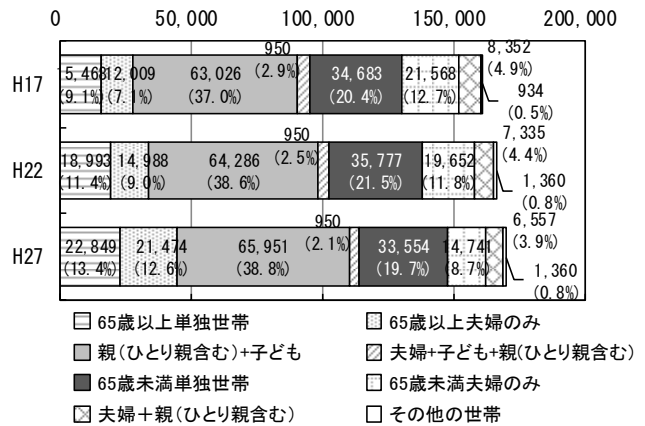


【参考】各市全域における高齢者数・高齢化率の推移、世帯構成 (出典：国勢調査)

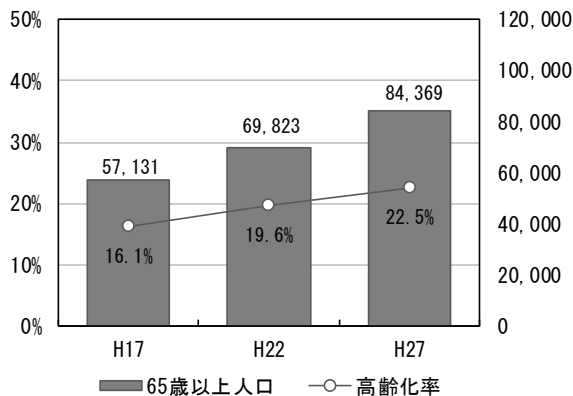
豊中市全域



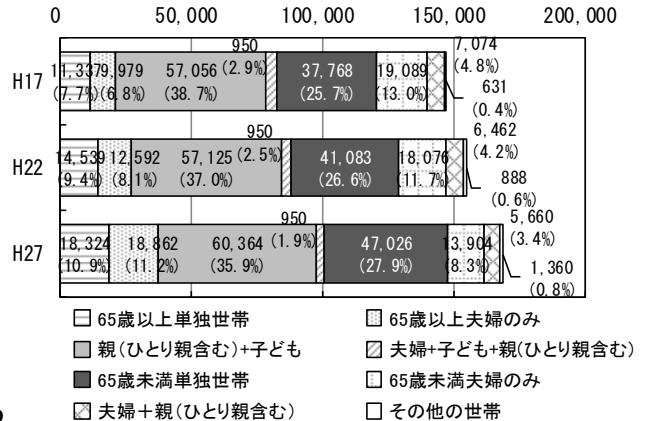
豊中市全域



吹田市全域



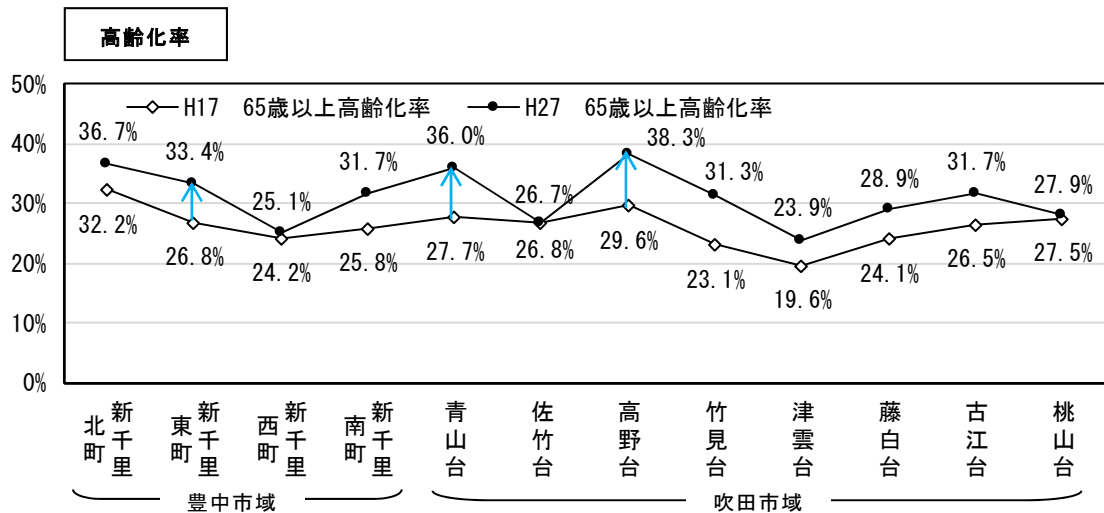
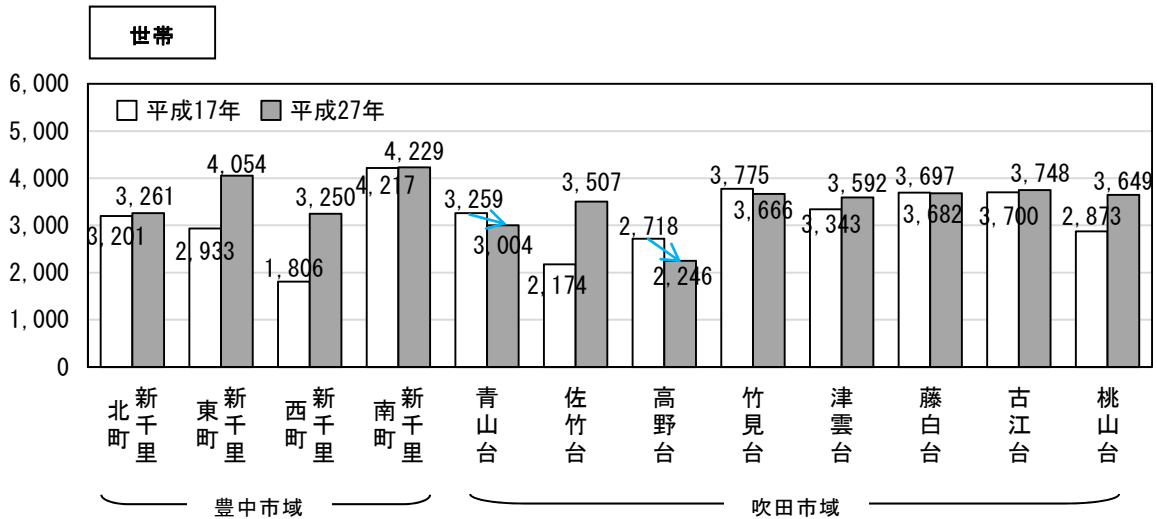
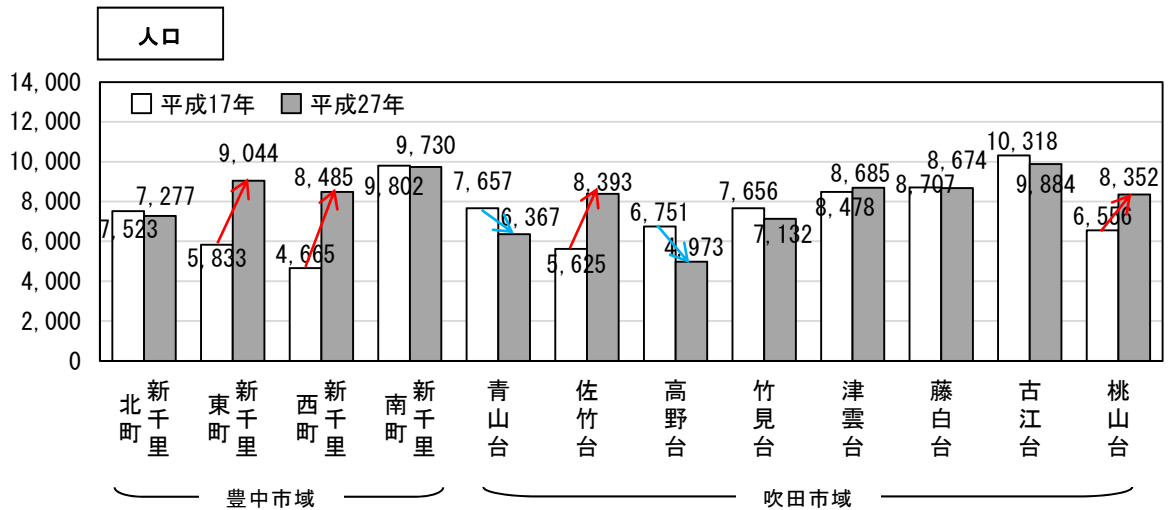
吹田市全域

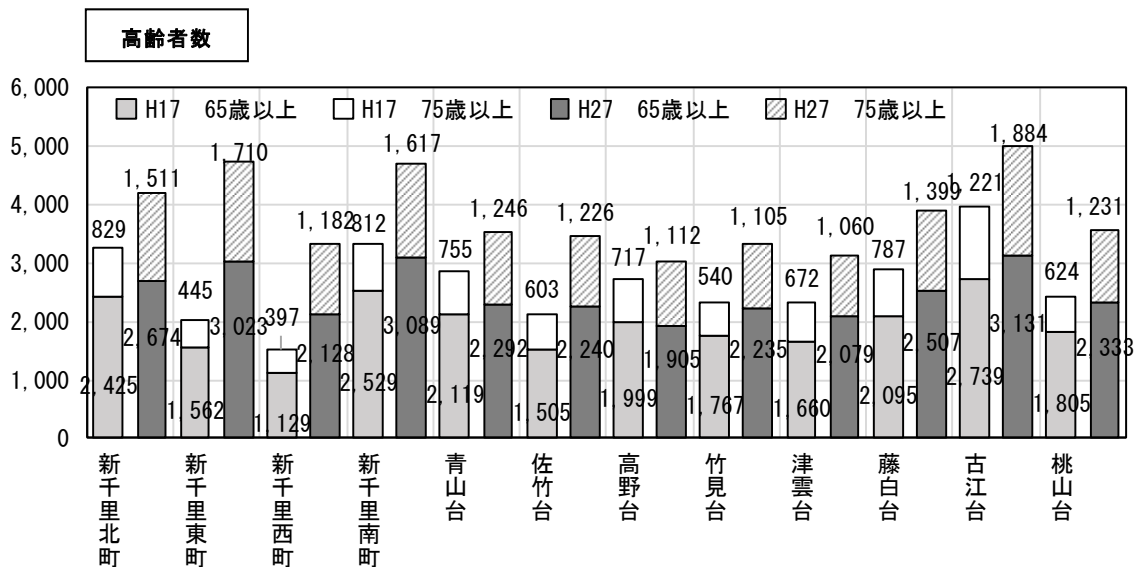


(住区別人口・世帯数)

- ・平成 17～27 年の 10 年間で、新千里東町、新千里西町、佐竹台、桃山台で人口が約 1,000 人以上増加。
- ・一方、青山台、高野台では人口が 1,000 人以上減少し、世帯数も減少。
(高野台は、人口・世帯数の減少が顕著であるが府営住宅の建替事業の影響も考えられる)

■住区別人口・世帯数(出典：国勢調査)



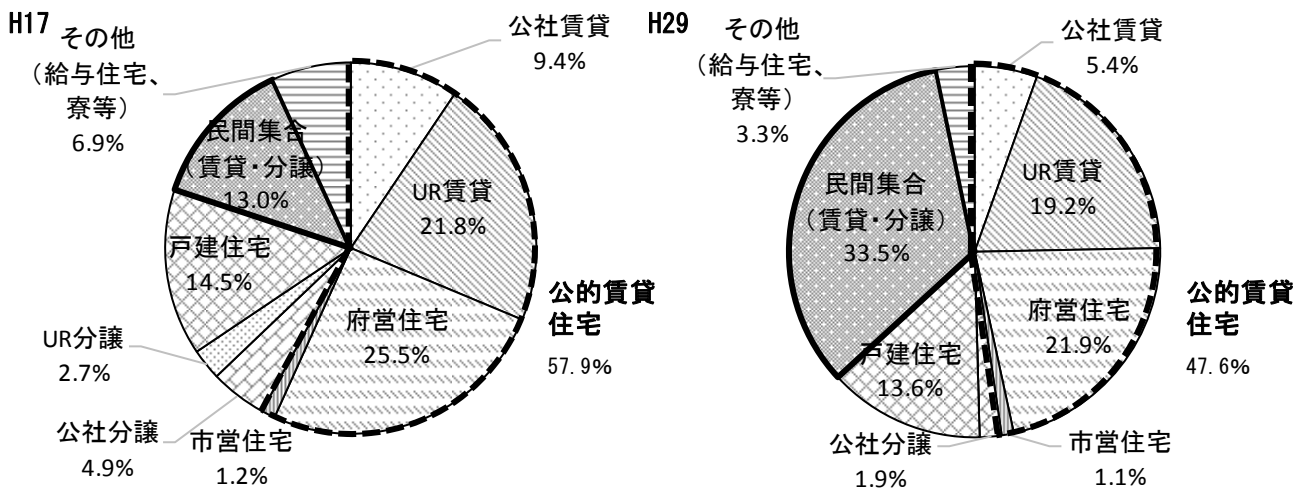


2. 住宅

○新しい集合住宅の供給により、持ち家率が高まり公的賃貸住宅の割合は低下

・H17～29年の10年間で、公的賃貸住宅（府営住宅・市営住宅、公社分譲住宅、UR分譲住宅）が10.3%減少し、民間集合住宅（賃貸・分譲）が20.5%増加。

■所有関係別住宅種別戸数推移(出典：大阪府提供データ)



公的賃貸住宅								公的分譲住宅			
公社賃貸		UR賃貸		府営住宅		市営住宅		公社分譲		UR分譲	
H17	H29	H17	H29	H17	H29	H17	H29	H17	H29	H17	H29
3,940	2,580	9,116	9,116	10,619	10,384	504	504	2,052	903	1,132	0
9.4%	5.4%	21.8%	19.2%	25.5%	21.9%	1.2%	1.1%	4.9%	1.9%	2.7%	0.0%
戸建住宅		民間集合(賃貸・分譲)		その他(給与住宅、寮等)		総計					
H17	H29	H17	H29	H17	H29	H17	H29				
6,053	6,444	5,432	15,891	2,874	1,556	41,722	47,378				
14.5%	13.6%	13.0%	33.5%	6.9%	3.3%	100.0%	100.0%				

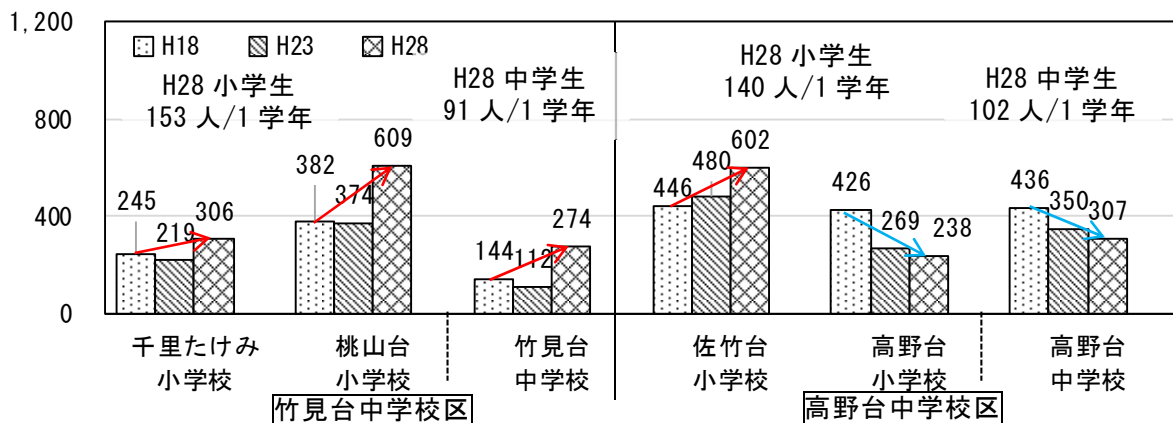
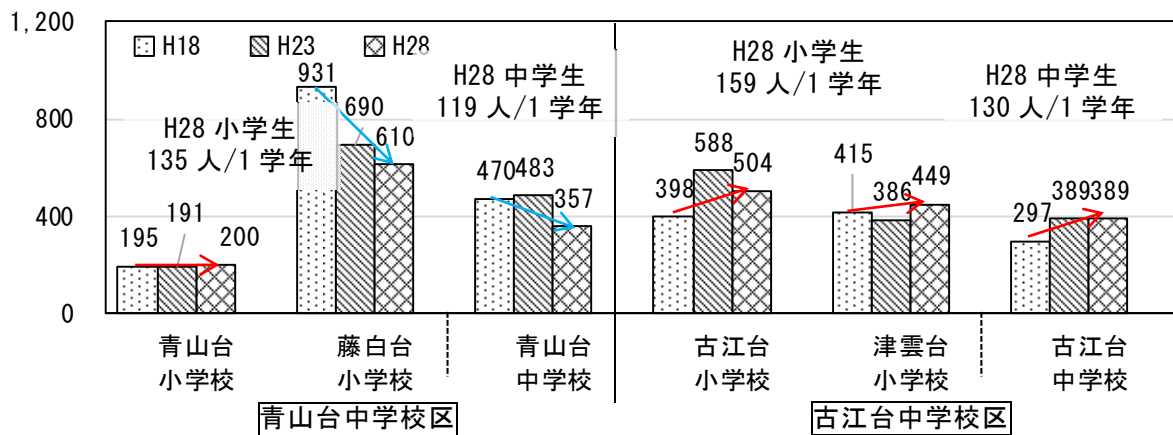
注) 公社賃貸、UR賃貸、府営住宅、市営住宅、公社分譲、UR分譲は大阪府提供データ参照(H29.3.31時点)。戸建住宅、民間集合、その他(給与住宅、寮等)はゼンリン住宅地図を用いて計数(豊中市分H29.1発行、吹田市分H29.6発行)。一部、大阪府提供データ、およびインターネット上の不動産情報を参照し補足した。

○小学校児童数は増加しているが、地域外へ中学生が流出している

- ・平成28年時点において、豊中市第九中学校以外の校区で、小学校の1学年児童数が減少し、学区外の中学校へ進学している。特に、竹見台中学校区での減少が顕著。
- ・吹田市域の小学校児童総数は10年間で280人減少、中学校児童総数は127人減少。
- ・豊中市域の小学校児童総数は10年間で549人増加、中学校児童総数は147人増加。

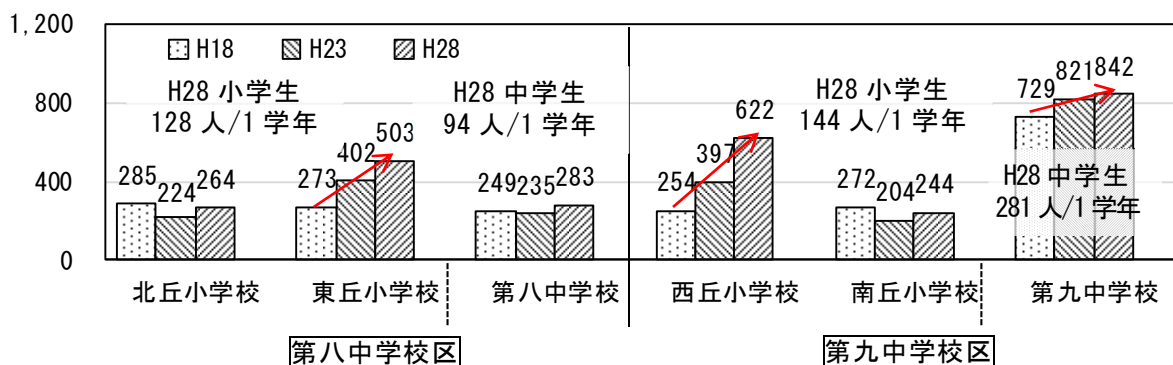
■吹田市児童数（出典：吹田市統計書）

	H18	H23	H28
吹田市域小学校児童総数	3,798	3,197	3,518
吹田市域中学校児童総数	1,819	1,334	1,692



■豊中市児童数（出典：豊中市HP 小学校・中学校在籍生徒数）

	H18	H23	H28
豊中市域小学校児童総数	1,084	1,227	1,633
豊中市域中学校児童総数	978	1,083	1,125



※同学区内の新田小学校、新田南小学校を含めると、H28時点で354人/1学年

8. 千里ニュータウンを取り巻く状況

○高齢化の進行に伴う健康・医療ニーズの高まり

- ・高齢化に伴って医療ニーズが高まり
- ・健康寿命の延伸に重点を置いた健康維持・増進の取組の幅が拡がりを見せており、国民の生活面でもジョギングやフィットネス等を行うものが増加

○コミュニティの変化

- ・高齢化の進行等に伴い、自治会を中心とする伝統的な地縁型コミュニティでは担い手不足等の課題を有し、一方で地域包括ケアシステムや地域防災など、地域コミュニティの役割が多様化
- ・自治会や各種団体だけでなく、企業等も含めたプラットフォームの形成など、多様な組織構成の事例も見られる。またコミュニティカフェなどの新たな地域とのつながり方が出現

○「空間づくり」から「場所づくり」へのシフト

- ・働き方の多様化、シェアリングエコノミーの進展など住宅・住宅地に求められる機能や価値感が多様化
- ・個性を活かせる居場所、豊かに時間を過ごせる場所、サードプレイスへのニーズが益々高まっている
- ・人々の消費行動はモノ（＝商品）からコト（＝活動）にシフトし、単なる商業施設に留まらず様々な体験や活動ができる施設、交流や文化を楽しむ施設が求められている
- ・住宅地、中心市街地などでのエリアマネジメントが着目され、そのための仕組みも整ってきた

○既存ストック活用の多様な展開

- ・空き家の増加
- ・低コストで自分らしい住まいや店舗・施設等を実現するリノベーション人気の高まり
- ・既存ストック活用の拡がり（小規模保育事業制度の創設や、地域支援事業を活用した身近な相談・見守り拠点等の多様な分野に拡がり）

○住宅・生活サービス分野でのさらなる技術進化

- ・IoT(モノのインターネット化)や人工知能の技術進化、商品開発等が進行し、住宅や家電製品の高度情報化、介護サービス等の合理化など、これまでの都市像・住宅地像が変化しつつある

○国際交流・広域交流の進展

- ・インバウンド需要が拡大し、大阪圏でも来訪外国人が増え、ビジネスの機会と幅が増加
- ・2025年大阪万博招致構想やリニア構想など、広域交流・国際交流がさらなる進展
- ・千里ニュータウンでは、留学生会館をはじめとして勤務・通学する外国人の住まいも多く、国際交流の素地がある

○公民連携事業の高まり

- ・これまでの公的施設の整備、公的不動産の利活用に留まらず、福祉、文化、教育、まちづくりなどの関連分野で、多様な公民連携事業が実施

○環境・省エネへの社会ニーズの高まり

- ・住まい・まちづくり分野における環境配慮、省エネルギー化への取り組みの必要性の高まり

○周辺地域には、多様な施設等があり、今後もその発展が見込まれる

- ・北大阪地域の広域的な視点で見ると、周辺地域には彩都ライフサイエンスパーク、健都、大学などの学術・研究開発機能、万博公園、服部緑地等の公園緑地機能のほか、高次医療施設や大規模商業集積などの豊富な資源がある
- ・また大阪国際空港の大規模改修、北大阪急行や大阪モノレールの延伸、バス路線の再編など、公共交通網が拡大し、交流人口拡大のポテンシャルを有している
(北大阪急行の延伸：箕面市方面に延伸予定、平成32年度開業目標
大阪モノレールの延伸：東大阪市方面に延伸予定、平成41年開業目標)

■近年の周辺プロジェクト



箕面森町

豊かな自然環境に恵まれた住宅地の開発と共に、北大阪急行線の延伸（H32）や、新名神高速道路の開通（H29）、それに伴う企業誘致の動きなどが連動。地区面積：約 313.5ha 計画戸数：約 1,800 戸 計画人口：約 6,000 人 事業施行期間：H8～H35



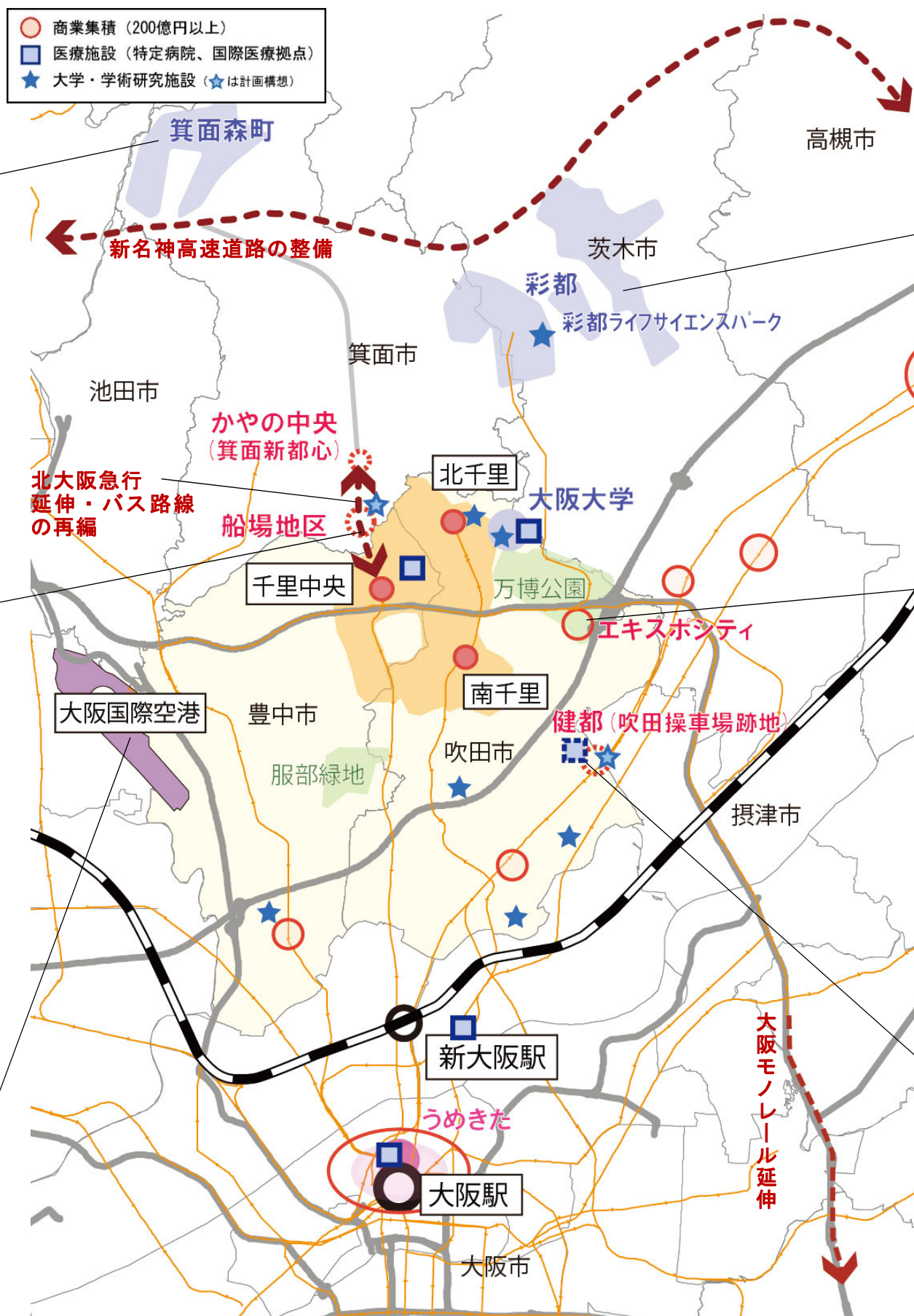
船場地区（仮称）箕面船場駅前

北大阪急行延伸に伴う新駅の駅前に、大阪大学箕面新キャンパス、関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター（仮称）等を整備、医科学研究やスポーツ・芸術を通じた健康増進等をテーマにまちづくり。地区面積：約 4.8ha まちびらき予定：H33 春



大阪国際空港ターミナル改修プロジェクト

「Speedy&Smart 都市型先進空港 ITM」として、出発・到着動線の改善やバス等乗降場の再配置、イベントエリアの拡充、商業エリアの改装、情報提供のための最新 IT・デジタルサイネージの活用等を行う。H31 春まで：レストラン等の改装、H33 夏まで：ウォークスルー型の商業ゾーンを新設予定。



彩都（国際文化公園都市）

H16にまちびらきをした西部地区は居住人口4,552世帯13,822人（H28.10）で、研究機関の集積や、物流拠点が形成されている。今後も東部地区、中央東地区、山麓線周辺地区のまちづくりが進展する予定。



万博公園跡地開発 EXPOCITY

水族館や、体験型エデュテイメント施設の外、ショッピング、レストランなど複合施設が H27 に整備。隣接地に吹田サッカースタジアムも同時期に完成。敷地面積：約 172,000 m² 店舗面積：約 88,000 m² 施設及び店舗数：約 300 店



健都

操車場跡地に、国立循環器病研究センター移転、市立吹田市民病院移転、岸辺駅前複合商業施設建設（全て H30 完成予定）、企業の誘致や大規模公園整備、等が整備されていく予定。計画対象区域：約 24ha